

My Style
1



自然循環型有機農法で栽培
安心して食べられる糸島の恵み

夫婦でオリーブや甘夏、イチジクなどを農業不使用で栽培。さらに、新鮮な食材が手に入る環境のおかげで子どもたちは好き嫌いなく、野菜も魚も大好きに！

My Style
2



心地よさと優しさお届け
自然由来の“暮らしのモノ”

自家栽培のオリーブと柑橘類を使い、精油や保湿クリームなどオリジナル商品「農香(のうか)」を展開。肌にも地球環境にも優しい。

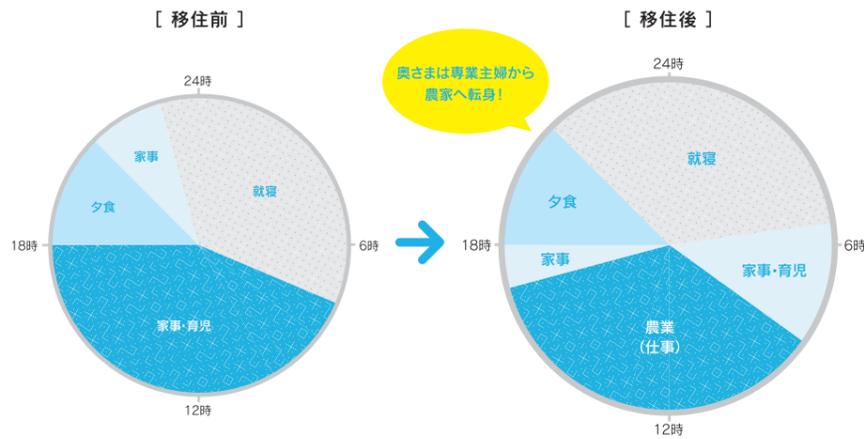
My Style
3



周りの自然が遊び場！
アクティブにのびのびと暮らす

移住前は、お金をかけて遊んでいたが、糸島では目の前の自然が遊び場。子どもも土に触れることが大好きで、虫だってヘッチャラ！

LIFE STYLE BEFORE / AFTER



自然に近い暮らしのおかげで心健やかに。食生活も改善！

朝早くから動き出し、日中は果樹園で作業。日の光を浴びて、緑や土に触れ、自然を感じながら、家事と育児もこなす。以前より忙しいけれど、暮らしの質と健やかさがぐんと上がったと実感している。

移住して良かったことランキング

1位 憧れのスローライフ！
理想の暮らしが実現

“いつかはスローライフを送りたい”とずっと思っていた若松さん夫妻にとって、自給自足に近い糸島での生活はまさに理想そのもの。

2位 個性豊かでハートフルな
人に恵まれた糸島の風土

子どもの面倒を見てくれるご近所さんや、愉快的ダンスパフォーマンス、アーティストなど、糸島暮らしは人に恵まれた土地だろう。

3位 水、空気、食べ物など
自然のものがおいしい

野菜、肉、魚など、新鮮でおいしい食材が手に入るから、子どもたちも好き嫌いなし！果樹園の近くの水汲み場もよく利用している。

若松さんのお気に入りスポット

ぎやらり浮嶽
FUGAKU

大庭康弘さんの窯元「浮嶽窯」に併設するギャラリー&カフェ。豊かな風合いと、温かみを感じる器の数々は必見！奥さまが手作りする日替わりケーキも優しくてほっとする味わい。



姉子の浜

幅約20m、長さ1kmの砂浜が弓状に広がり、歩くときに「キュッキュ」と砂が音を鳴らすことから「鳴き砂」と呼ばれている。夕日が美しく、若松さんも家族でよく訪れる海水浴場。



人にも自然にも恵まれて、
子どもたちもいきいき
育ってます！

神奈川県

福岡県

糸島市

(移住歴5年)

若松 潤哉さん(43)

由加利さん(36)

農業や化学肥料を使わず、有機農法でオリーブや柑橘類を育てる「わかまつ農園」を運営。山と海に挟まれた糸島市で、四姉妹の子どもたちと暮らす。

自然と寄り添う生産者に。
生き方と仕事の理想のカタチ。

「果

樹園は畑が完成するまで何年もかかります。私たちが就農し、竹藪だった土地を開墾して6年目。やっと理想の畑に近づきました。」そう語るののは、糸島市で「わかまつ農園」を営んでいる若松由加利さんだ。5年前まで神奈川県で暮らしていたが、飛行機の整備関係の仕事だったご主人・潤哉さんが病で倒れ、生きる意味を見つめ直す機会に直面。これからの人生を問い、行き着いた答えは、自然とともに精一杯生きること。そして農作物の生産者となり、自然の恵みを未来に繋げることに決めた。ご主人の両親が住む福岡を訪れた際、糸島市の人々に「スローライフを送るなら糸島がいいよ。」と勧められ、移住を決意。すぐに果樹園の農地探しを始め、耕作放棄地の再生利用の補助制度を受けて、精力的に動きまわった。

農業を営む両親の姿は、子どもたちにも好影響を与えている。「オリーブや甘夏など、私たちが丹精込めて農作物を育てることで、子どもの食育に繋がるんです。我が子も果樹園も、自然と共存しながら力強く育ってほしいですね。」

My Style



「おいしいパン」を食べる場所づくり。テーマは“プロヴァンス風ハウス”。

互いの早期退職によって得た退職金で実家を改築。南仏のリゾート感漂う石畳と木が調和した建物(店舗は向かって左側の部屋)は、周囲の自然にも溶け合っている。

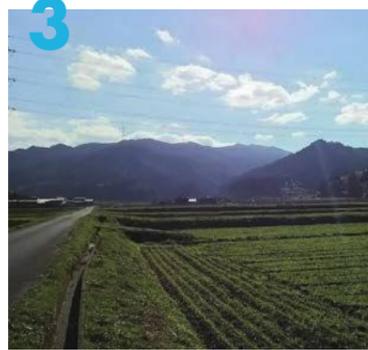
My Style



地元で採れる青果物でつくる、こだわりのパンづくり。

スイーツから惣菜系まで、店には常時15種類ほどのパンが並び、材料となる青果物は、地元のマーケットまで夫婦で仕入れに出かけることも多い。

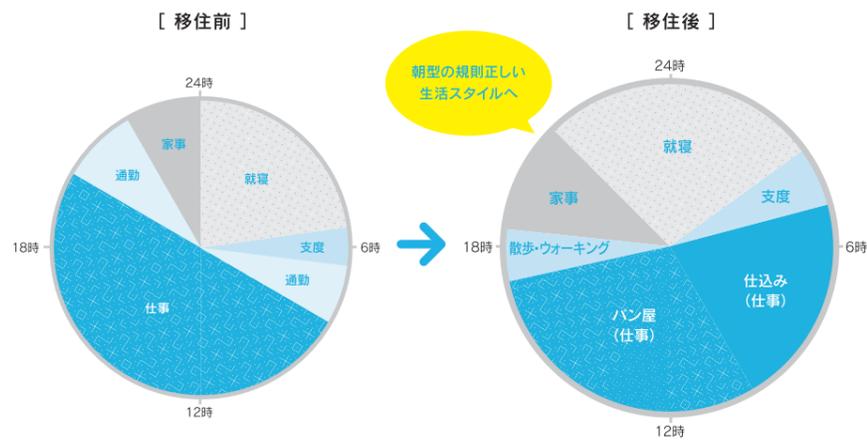
My Style



季節の移ろいを感じながら、健康維持のための散歩タイムを。

17時の営業終了とともに始まるウォーキングタイム。広大な田園に育つ美しい稲穂や季節毎に咲く花の風景を楽しみながらリフレッシュするのが日課だ。

LIFE STYLE BEFORE / AFTER



“終日型”から“朝型”へのシフトで快適な午後の時間が出現。

就業時間を自らで決めることで、規則的なサイクルが生まれた。とりわけ夕方の過ごし方は自由度が高く、日課のウォーキングや自家菜園の手入れなどを気ままに楽しんでいる。

移住して良かったことランキング

1位 どこをとっても豊かな自然に溢れている

自宅の目の前に広がる田園風景の他、美しい川の流れや四季折々の自然風景を毎日感じられること。梅や桜などの名所が多い。

2位 魚や野菜が美味しく、物価が安い

近所で調達する食材は地元産が多く、鮮度が保たれたまま味わえることが嬉しい。また関西圏に比べると物価も安い。

3位 近所や地域の人たちの穏やかな人柄や心配り

周囲から催し物の案内が届くなどの心遣いは魅力。一年を通し、様々な行事があるのも嬉しい。

長洲さんのお気に入りスポット

本庄の大楠 (国指定天然記念物)

全国でも有数の大きさとして知られる。樹高は約26メートルで、樹齢は1000年以上。現在は5本の支柱によって保護されている。大楠神社の境内では花火大会やクラシックコンサートなども開催される。



旧蔵内邸 (県指定文化財)

明治から昭和前期まで福岡県筑豊地方を中心に炭鉱を経営した蔵内家三代の自家住宅。田園風景の中に堂々と佇む邸宅と庭園では、一年を通じて様々なイベントが行われている。



大阪府
↓
福岡県
筑上町
(移住歴4年)
長洲 正幸さん(60)
万寿美さん(60)

30年以上にわたる関西での夫婦共働きの生活を経て、2014年に万寿美さんの実家がある築上町へ移住。かねてから計画していたパン屋を開業した。

夢に描いたセカンドライフを楽しく実践中!

早期退職で実現した夫婦で好きなことに打ち込む時間。

のどかな田園風景が広がる築上町で「本庄のパン屋さんじゅあん」を切り盛りする長洲さん夫妻。朝3時半の起床とともに、材料の仕込みを始める生活も、今年で5年目を迎える。かつて30年以上も関西で共働き生活を送ってきた。正幸さんは大阪の企業でシステムエンジニア、万寿美さんは小学校教諭を務めてきた。「関西での生活は早朝から深夜まで働き詰めの日でしたが、子育ても一段落ついた頃から、ゆくゆくは田舎生活もいねと互いに話す機会が増えました。」

夫婦が築上町への移住を決意した背景には、高齢になる万寿美さんの両親の存在があった。「せっかく移住するのなら、タイミングは早い方が何かを始めるにもいいでしょうし、両親も安心ですからね。」互いに早期退職後を楽しく計画した結果、店舗開業への道が開けた。「好きなことを2人で打ち込める時間、規則的な生活リズム、豊かな自然環境。ここでの暮らしは関西時代とは真逆と言えるほど穏やかです。」

